

これは、結婚についての新聞の記事です。

日本の結婚事情

日本では、一九八〇年ごろから、結婚しない人が増えてきたが、一九九五年の調査によると、結婚しない人の割合は、非常に多くなっている。

男性は十人に一人が、女性は二十人に一人が一生結婚しない。三十五歳から四十歳の人の場合は、男性の二十五パーセントが、女性の十パーセントが結婚していない。

以前は、日本人は、誰でも結婚するのが当たり前だった。一九六〇年ごろまでは、男性も女性も、ほとんど全部の日本人が結婚した。結婚しない人の割合は、一パーセントぐらいで、ほかの国に比べて、非常に少なかった。そのころ、特に女性は、二十五歳ぐらいまでに結婚しなければならなかった。三十歳ぐらいで、まだ結婚していない女性を、人々は「オールドミス」と呼んだ。そして、「早く結婚しなさい」と何度

も言った。ところが、一九九五年には、二十五歳から三十歳の女性の半分が結婚していない。

誰でも結婚するのが当たり前だとか、女性は、早く結婚しなければならないという考え方は、ずいぶん変わってきた。

伝統的な見合いの形式も、変わってきている。以前は、親戚や知り合いが見合いの相手を紹介したが、最近では、相手を紹介する会社が、たくさんできて、これに登録する人が多くなっている。

また、最近では、離婚も多くなっている。一九九五年には、約二十万組の夫婦が離婚した。以前は、日本では、離婚はたいへん少なかったが、今では、そんなに珍しくなくなった。

人々の結婚や離婚についての考え方は、大きく変わってきた。今後は、家族の形も変わっていくだろう。

15 せつめいぶん にほん かんようく わたくし くに かんようく
 説明文「日本の慣用句」／「私の国の慣用句」

日本語には、いろいろなことわざや慣用句（イデオム）がありますが、目や耳や頭などの体の一部分を使った表現がたくさんあります。

「頭が古い」という表現は、「考え方が古い」という意味です。「頭が痛い」という表現は、本当に頭が痛い時にも使いますが、困った問題がある時にも使います。例えば、「子どもがあまり勉強しないので、頭が痛い」などと使います。

「耳が痛い」という表現は、誰かが指摘した一般的な問題点が、自分にもあると思った時に使う表現です。例えば、「きのう、テレビで、最近の若い人は漢字をあまり知らないと言っていたが、私も耳が痛かった」などと使います。

「鼻が高い」という表現は、何かを自慢する時に使う表現です。例えば、「私は、甥がオリンピック選手になって、鼻が高い」などと使います。

「口が重い」という表現は、「あまり話さない」という意味です。例えば、「総理大臣は、経済問題についてはよく話したが、外交問題については口が重かった」などと使います。「口が軽い」という表現もあります。「口が軽い人」は、「言っではいけないことを言ってしまう人」です。反対の意味の表現は、「口がかたい」です。「口がかたい人」は、「言っではいけないことは、絶対に言わない人」です。

ほかに、手や足を使った表現もたくさんあります。

